

問診でわかる食道疾患

患者さんの話しは聞く(問診)のは、極めて重要な診療行為です。「アナムネをとる」などと能動的でない方がありますが、鑑別疾患を上げながらポイントをおさえ聞き出すことが重要です。

10年前の問題

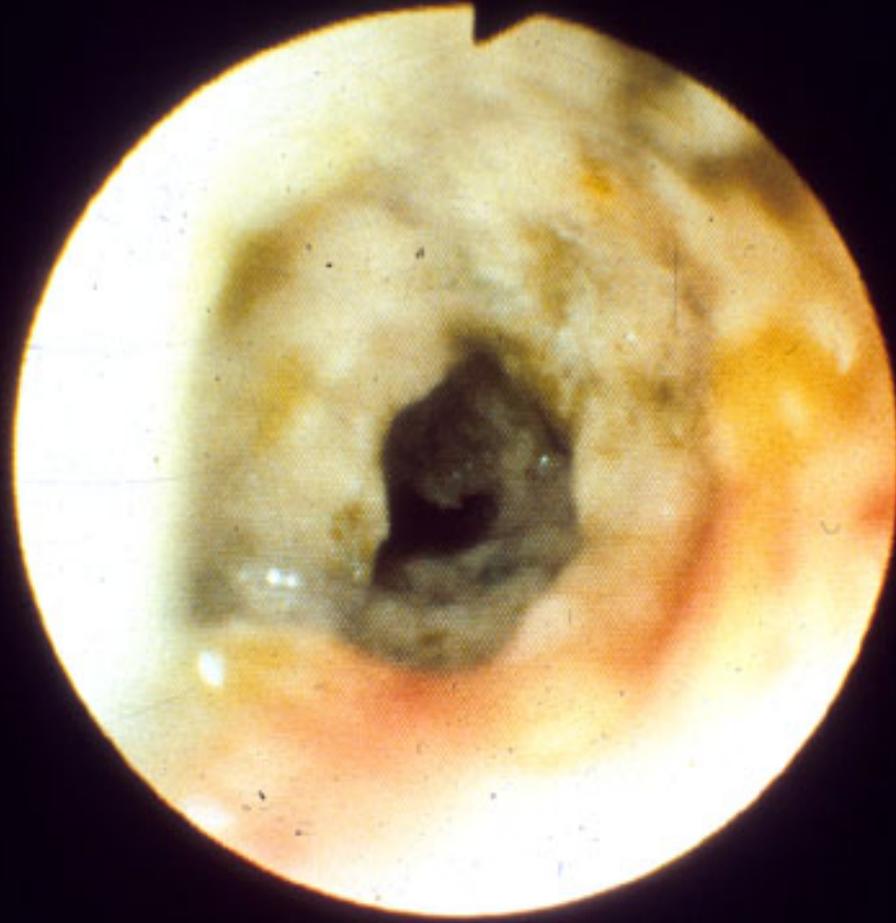
99A-24 51歳の男性。嚥下困難と体重減少を主訴に来院した。6年前から食物のつかえ感を自覚していた。最近症状の悪化があり、体重が1か月で5kg減少した。身長169cm、体重47kg。胸腹部に異常所見を認めない。血液所見：赤血球384万、Hb 11.5g/dl、Ht 34%、白血球7500。血清生化学所見：総蛋白6.1g/dl、アルブミン3.7g/dl、尿素窒素12mg/dl、クレアチニン0.6mg/dl。AST 19単位、ALT 21単位。上部消化管造影写真（別冊No.15）を別に示す。この疾患について正しいのはどれか。

- a 男性に多い。
- b 嘔声を来す。
- c 吐血を伴うことが多い。
- d 嚥下性弛緩反応がない。
- e 胃液の逆流によって発生する。



自経例

内視鏡を担当していて
「これは食道がんだ」と思った



卒業後3年目で経験した自経例

自経例

待てよ？と思いきうちに
水溶性の造影剤で食道通し撮影



病状経過でわかつちゃう！！！！

74-C31

28歳の男性。10年前からときどき嚥下困難と胸骨後方痛があり、特に冷水摂取時に著しい。最近、嚥下困難が増強したので来院した。赤血球430万、Hb13, 2g/dl, Ht41%, その他一般検査で異常所見を認めない。食道造影写真を示す。

考えられる手術術式はどれか。

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| (1) 下部食道噴門筋切開術 (<u>Heller法</u>) | (2) 噴門形成術 |
| (3) 迷走神経切離術 | (3) 噴門切除術 |
| (5) 食道離断術 | |

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

経過が長い
K2への作り直し

古い国家試験問題

77C-36

25歳の女性。10歳から、食物摂取に際し、胸骨下部に狭窄感を覚えた。その後狭窄感が増悪し、固形物摂取後は水をよく飲むようになった。嘔吐および胸やけはなく、体重は正常である。食道・胃造影写真を示す。適切な手術術式はどれか。

- (1) 噴門形成術 (2) 食道裂孔拡大術 (3) 迷走神経切離術
(4) 食道亜全摘除術 (5) 食道噴門部筋切開術

- a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)、(3) d (3)、(4) e (4)、(5)

そして経過が長い
これもK2へ

古い国家試験問題

83E-31

45歳の女性。10年前から食物のつかえる感じがあったが、最近、症状が増悪し、ときに嘔吐するようになり入院した。吐物は食物残渣や唾液であり、胆汁は混じっていない。体重減少はほとんどみられない。食道エックス線造影写真を別に示す。

(1) 非観血的拡張術

(2) 食道裂孔拡大術

(3) 迷走神経切離術

(4) 筋切開術 (Heller法)

(5) 噴門形成術

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

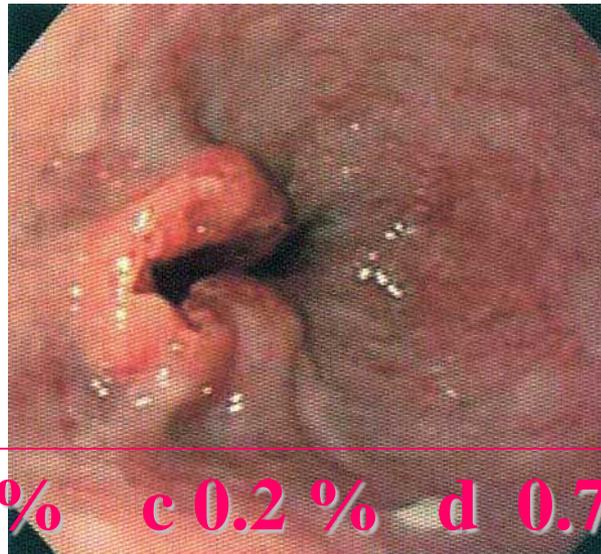
しつこく経過が長い
結構安易な作り方

8年前の問題

102D-30 55歳の男性。嚥下困難と嘔吐とを主訴に来院した。2か月前から食物のつかえ感を自覚した。5日前から固形物をとると嘔吐し、水分のみが摂取可能となった。喫煙は30本/日を35年間。身長168 cm, 体重55 kg。眼瞼結膜に貧血を認める。食道内視鏡写真(別冊No.6)を別に示す。

診断はどれか。

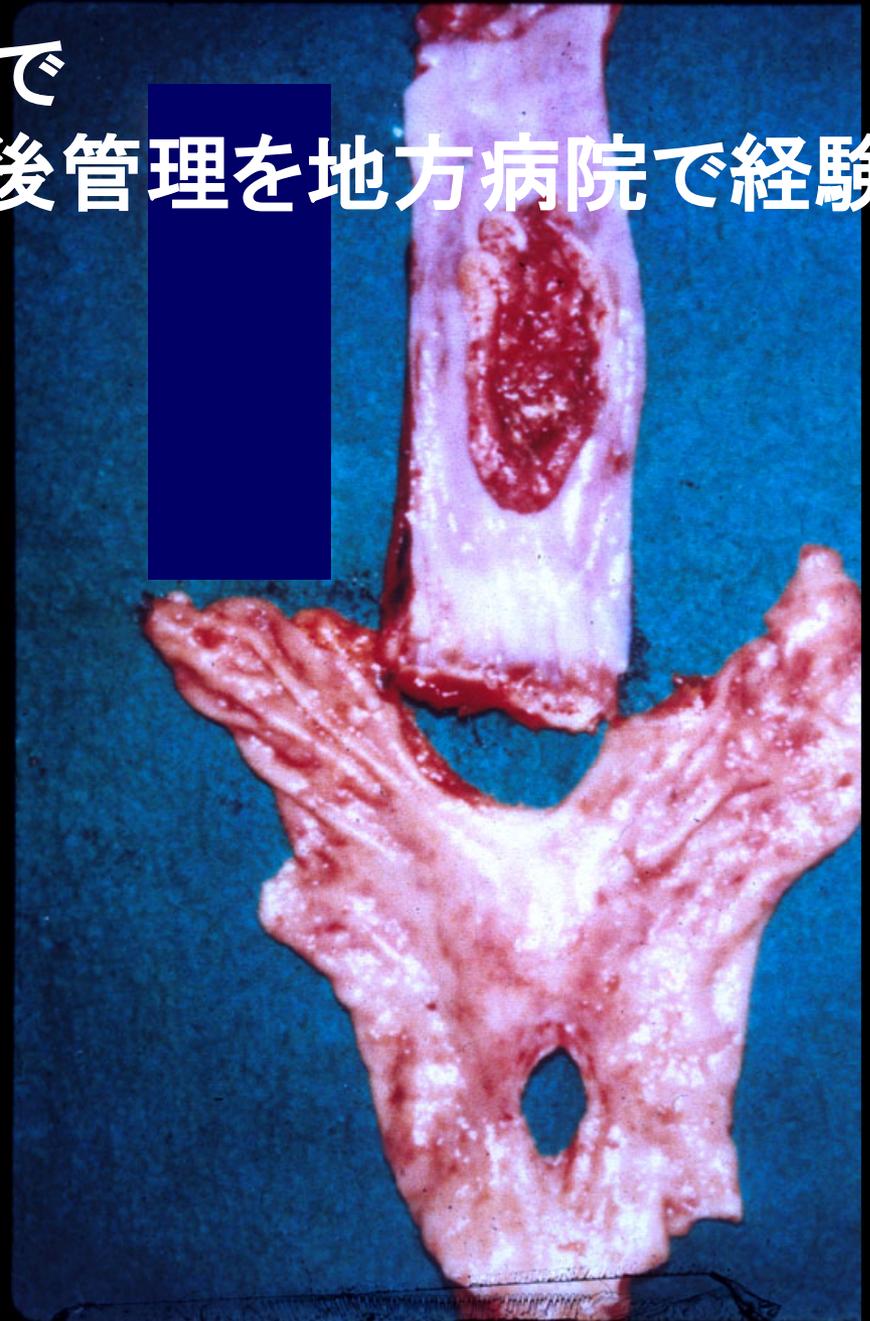
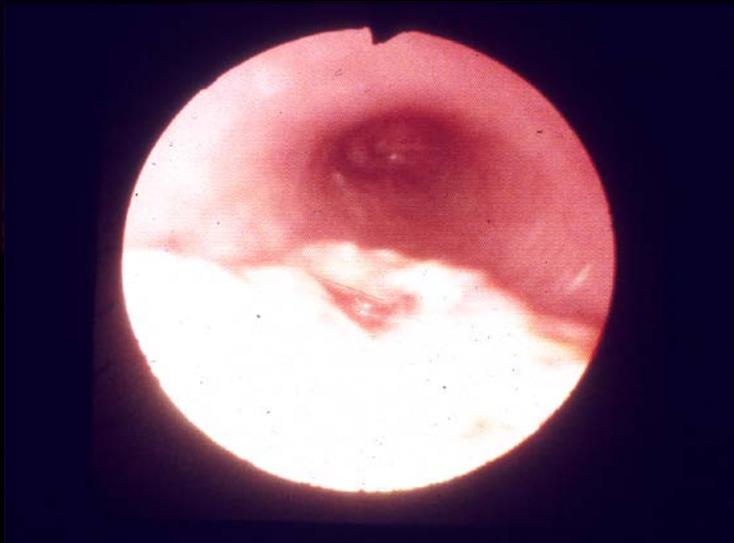
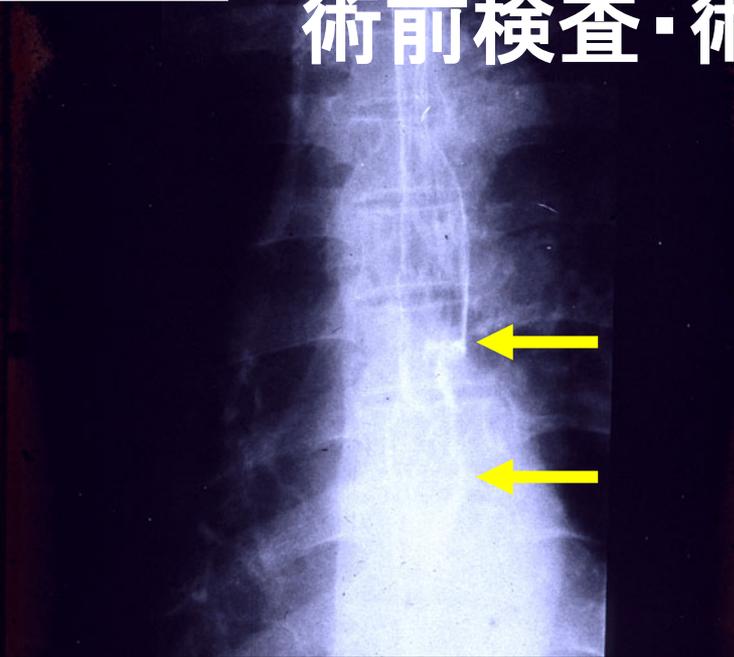
- a 食道癌
- b 食道異物
- c 食道静脈瘤
- d 逆流性食道炎
- e 食道アカラシア



a 96.2% b 0.0% c 0.2% d 0.7% e 3.0%

自経例

卒業後3年目で
術前検査・術後管理を地方病院で経験



古い国家試験問題

87E-14

58歳の男性。1ヶ月前から食物の通過障害が出現し来院した。上門歯列から23cmの部の食道内視鏡写真(A)と食道病変の生検H-E染色標本(B)とを別に示す。全身状態は良好で、胸・腹部エックス線検査および超音波検査にて特に異常は認めない。

この患者の適切な治療はどれか。

- a 放射線療法
- b 内視鏡的粘膜切除
- c 食道抜去
- d by-pass術
- e 経胸的食道切除

男性

古い国家試験問題

85C-17、18

次の文を読み、17、18の問いに答えよ。

62歳の男性、嚥下障害を訴えて来院した。

現病歴：2ヶ月前から食物がつかえる感じがたったが次第に増悪し、固形物の摂取が困難となり来院した。2ヶ月の体重減少は6Kgであった。血液検査結果、食道エックス線造影写真を別に示す。

85C-17 この患者にまず行うべき処置はどれか。

- a 絶食 b 抗生物質投与 c 輸血
d アルブミン投与 e 高カロリー輸液

85C-18

- (1) 頸部超音波検査 (2) 食道内圧測定
(3) 胸部エックス線CT (4) 気管支内視鏡検査

- a (1)、(3)、(4)のみ b (1)、(2)のみ c (2)、(3)のみ
d (4)のみ e (1)－(4)のすべて

そして男性

古い国家試験問題

86C-19、20

次の文を読み、19、20の問いに答えよ。

62歳の**女性**。嚥下障害と**全身衰弱**とのため来院した。

現病歴：**3**ヶ月前から食物の通過障害が出現し、次第に増強してきた。最近ではほとんど飲食物が通過せず、特に、水分を摂取すると激しく咳き込み呼吸困難となる。またこの1週間は38度C前後の発熱が続き、全身状態が次第に衰弱してきた。

既往歴、家族歴、現症、血液検査結果、

入院時の食道エックス線造影写真(A)と食道病変の生検H-E染色標本(B)を示す。

86C-19 まず行うべき処置はどれか。

- (1) 経管栄養 (2) 高カロリー輸液
(3) 食道内吸引管挿入 (4) 気管内挿管

a (1)、(3)、(4)のみ b (1)、(2)のみ

d (4)のみ e (1)－(4)のすべて

86C-20 考えられる治療はどれか。

- (1) 人工食道挿入 (2) 食道ブジー
(3) 食道吻合 (4) 食道抜去 (5) 頸部食道

a (1)、(2) b (1)、(5) c (2)

d (3)、(4) e (4)、(5)

たまたまに女性
でも85回の
コピペ

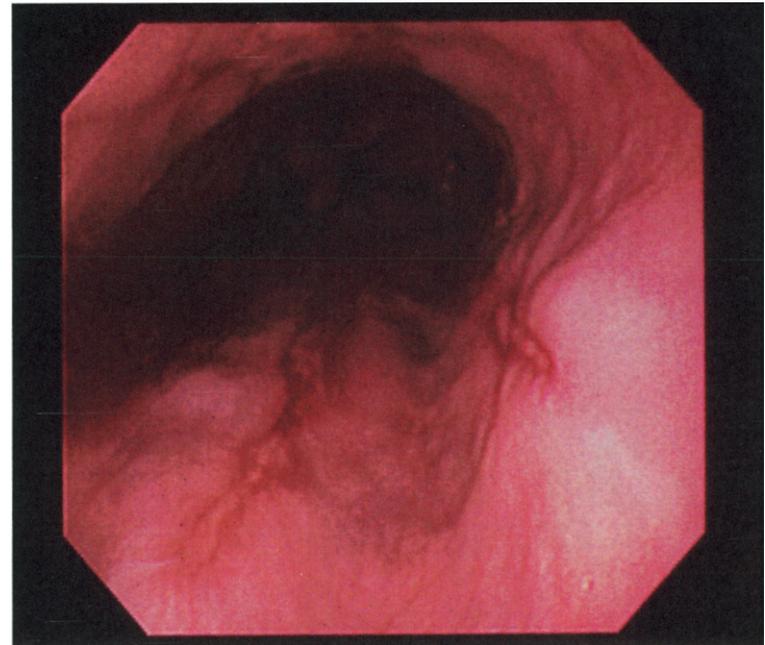
9年前の問題

101A-25

54歳の男性。胸やけを主訴に来院した。1年前より食後に胸やけの症状がある。食道内視鏡写真(別冊No、17)を別に示す。

診断はどれか。

- a 逆流性食道炎
- b 食道癌
- c 食道裂孔ヘルニア
- d 食道静脈瘤
- e Barret食道



答え a

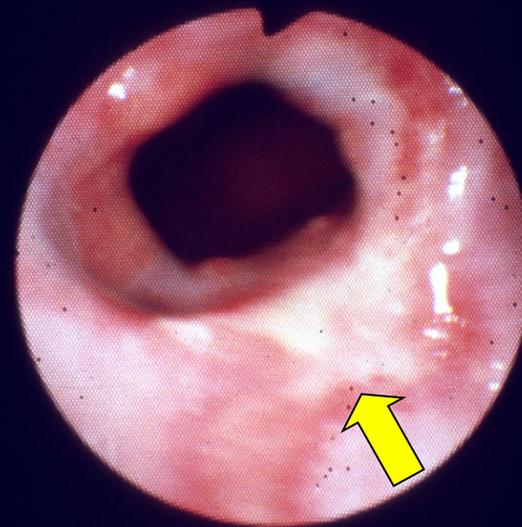
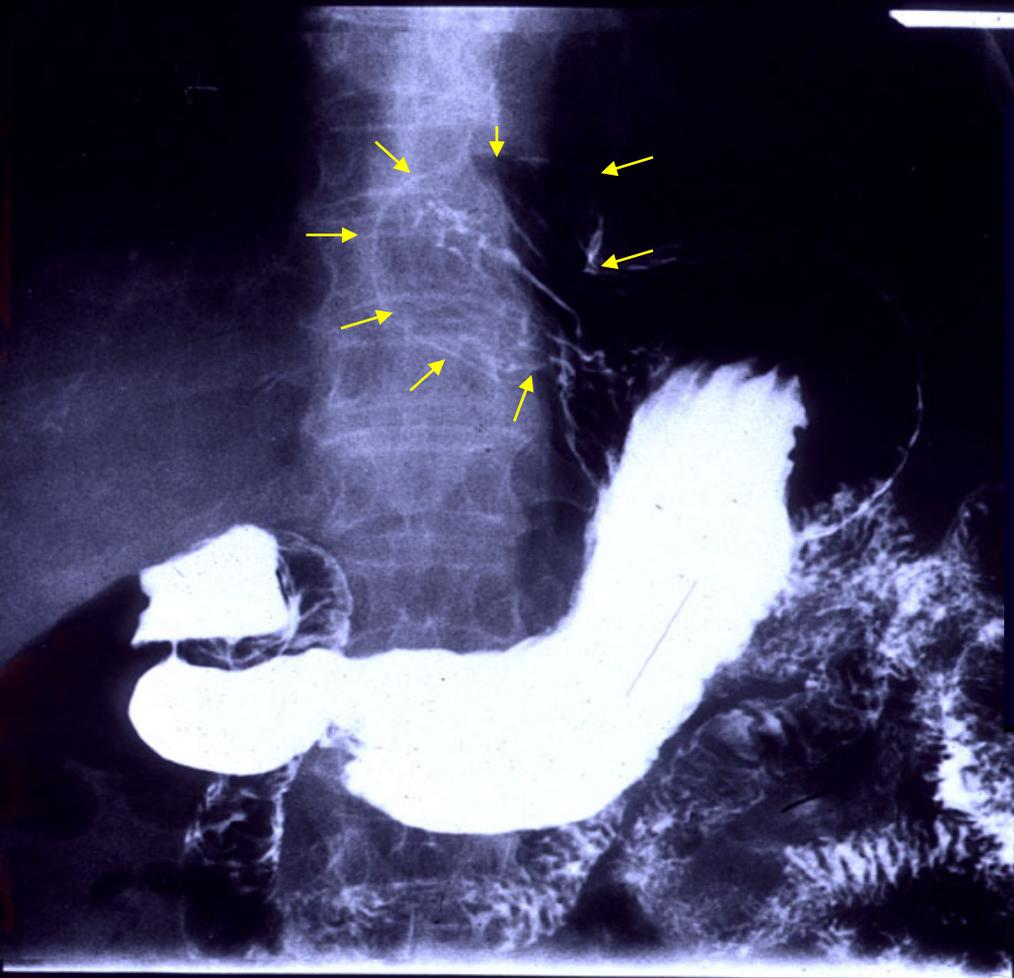
Aタイプ

必須問題はすべてこれ

過去問題とその類似問題が50%

自験例

色あせない30年前の経験

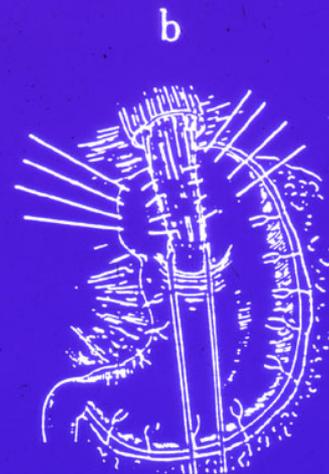


自験例



昔は開腹手術で

なんという手術？
BSLで見た？



(石上²⁾他より)

古い国家試験問題

89E-12

63歳の女性。数年前から胸やけと心か部痛とがあり制酸薬を常用していた。半年前から心か部痛が増悪し、嚥下障害と夜間咳そうとを訴え来院した。上部消化管写真(A, B)を別に示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- (1) 下部食道括約筋は正常である。
- (2) 加齢とともに症状は悪化する。
- (3) 食道にBarrett上皮を認める。
- (4) 24時間食道内pHモニターが手術適応決定に有用である。
- (5) 下部食道・噴門部切除が必要である。

a (1)、(2)、(3)

b (1)、(2)、(5)

c (1)、(4)、(5)

d (2)、(3)、(4)

e (3)、(4)、(5)

過去門は簡単
絶対Xは？

アナムネで鑑別診断が

国家試験	年齢	性別	経過	病名
・74－C31	28歳	男性	10年前	アカラジア
・77－C36	25歳	女性	10歳から	アカラジア
・83－E31	45歳	女性	10年前	アカラジア
・85－C17	62歳	男性	2ヶ月	食道癌
・86－C19	62歳	女性	3ヶ月	食道癌
・87－E14	58歳	男性	1ヵ月	食道癌
・102－D30	55歳	男性	2ヵ月	食道癌